

ファイターズがもたらした地域への愛着ときずな

ファイターズは地域の宝



福住地区まちづくり協議会 幹事
おおとも よしみ
大友 義見さん

福住地区は札幌ドームがすぐ目の前にあり、わたしも球団が来た当初からファイターズを応援してきました。平成18年には、日本一になった喜びを地域で分かち合おうと考え、駅出口前の広場にのぼりを立て、豊平のリングなどを配りました。もちろん去年も行いましたよ。つい勢い余って「日本一おめでとう」ののぼりも作ってしまいましたが、これは今年のためにとっておきます。

地域の祭りでマスコットのB・Bのみこしを担ぐなど、今ではファイターズは福住のまちづくりに欠かせない存在

です。顔を合わせれば野球の話で盛り上がり、応援の帰りには仲間と一杯やる——楽しいことがいっぱい、この住民はみんな福住が大好きですよ。これからも、ファイターズと一緒にまち起こしをしていきたいですね。



平成21年10月、福住駅出口前で300人の市民にリングやジャガイモを配布しました

札幌ドームで出会った、かけがえのない仲間たち



切り絵作家
みとま ま ゆ こ
三苦 麻由子さん

札幌ドームに行き、ファインプレーを見ては名前も知らない人と盛り上がり、何度も顔を合わせるうちに、20人ほどの親しい仲間ができました。ほぼ毎試合ドームへ通い、仲間たちと試合の展開に一喜一憂しながら声援を送っています。一緒に沖縄までチームのキャンプを観に行ったり、選手の似顔絵Tシャツを着て応援したりと、ファイターズは生活の一部ですね。

この夏、インフルエンザで寝込んだとき、仲間たちは心配してメールをくれて、お見舞いにまで来てくれる人もいました。また、個展を開いたときに

手伝ってくれる人もいて、今では家族のような存在です。試合の面白さ、チームの魅力はもちろんですが、一緒に応援することで仲間と気持ちが一つになれる、その一体感と充実感が、わたしがドームへ行く最大の理由です。



Tシャツの似顔絵は三苦さん作。ピンクの集団はテレビに映るとすぐ分かるとか

すべては地域のために

札幌への移転に携わったファイターズスタッフ
つちだ みつお
土田 光男さん



東京では約30年間、リーグ優勝からも遠ざかっていました。それが札幌に来て、わずか3年で日本一にまでなれたのは、本当に皆さんの応援のおかげです。東京で観客の少なかった時代を知る選手は、札幌での自分への声援の大きさに鳥肌が立ったと言いました。

選手たちは、どの球団よりもファンサービスを積極的に行い、街に根付いていこうとしています。これからも努力を重ね、勝敗に関係なく札幌の人たちに愛される球団を目指していきます。

多彩なファンサービスと地域交流

地域密着をチームの理念とし、選手たちが各地のスーパーに出向いてのトークショーや、試合前のサイン会など、積極的なファンサービスを行っています。また、市内の小学校全校訪問を目指し、選手たちが学校を訪ねたり、児童会館や幼稚園に出向いたりして、子供たちとも交流しています。



中の島児童会館では選手が子供たちと一緒にキャンドルを作りました